

中日新聞への抗議

7/24付記事において以下の点において事実を報道していない。報道機関としての公平・中立の立場を投げ捨てる以下の報道姿勢に厳重な抗議をする。

1. 全員協議会は、長田発言に対しての全議員での協議の場であることが大前提であったのに、見出しは「発言した議員に矛先」とブログ議員を攻撃することに終始したかのように報道している。
2. 全員協議会では、議論を絞るために、「長田問題」「長田問題を引き起こした議会活動の問題と議会改革」「議員の情報発信の在り方」の3点で議論を進めたが、記事は、「議員の情報発信の在り方」のみで構成された。
3. 構成内容は、読者の判断を「議会が議員の情報発信を規制する議会」に誘導するものと考えざるをえない。その根拠を以下に示す。
 - ・ 記事は、ブログ発信を「議会軽視」と短絡させたが、「議長宛の申し入れであれば、議長に直接申し入れ後にブログアップしないのは、議会軽視」との趣旨で発言がされた。浅尾議員は、議長に手渡す前にブログアップしている。
 - ・ 記事は「ルールを作る」と決めつけたが、「情報発信に最低限のルールづくりを考えるべき。市民に不利益の無いガイドラインが必要」との趣旨の発言だった。
 - ・ 山崎議員の発言により、ルールづくりが決まったかのように記事は構成されたが、山崎議員の発言は議員発言の一つであり、記事の様な順序ではなかった。恣意的に発言が切り貼りされている。
 - ・ 教授にコメントをもらっているが、記事をそのまま見せれば、当然のコメントとなる。記者の思惑に沿って必要なコメントを出るように対応したとしか判断できない。
 - ・ 浅尾議員は、1ヵ月間の沈黙後、いきなり議長の申し入れを行った。浅尾議員は、議会の対応の確認、同僚議員との議論、長田議員への忠告、どれも行わず、全員協議会での副議長からの経過確認を聞いて初めて議会の対応を知ったことを明らかにした。議会は本会議最終日に、議長から「不穏当発言確認後、削除すること」が伝えられていた。浅尾議員を含めて全ての議員から異論の声は上がらなかった。不穏当発言の処理方法に問題があったことを認めた上で、議会の対応を何も知らないままのブログ発信に疑問を感じた大多数の議員がルールづくりの必要性を判断したのであり、即議員の発言を規制すると決めたものではない。

ちなみに、全員協議会での議論は、以下のものであった。要旨を述べる。

「長田問題」には、別紙の様に経過の説明が行われた。経過を見れば、長田問題を隠ぺいしようとしたのではなく、従来の対応を進めていた。従来の対応とは、不穏当発言に対しては、議会運営委員会、本人の同意の上、削除するといものである。但し、従来の対応の不十分さが明らかになり、今後の改革の必要性が確認された。また、多くの議員から、自分たちの長田議員への指摘の不十分さを反省する意見が表明され、長田問題は、長田個人だけではなく、議会全体の問題だったことを認識した。その上で、長田問題は、①進退は本人の判断にまかせる、②結論は政治倫理審査会で検討が必要、と結論をもった。

「長田問題を引き起こした議会活動の問題と議会改革」では、「不穏当発言の処理方法（対応の迅速方法、削除の是非、全議員への対応方法の周知方法など）」「議会運営委員会の議事内容の議員への伝達方法」など議会改革の必要性が語られ、その対応を議会運営委員会に委ねられた。

「議員の情報発信の在り方」については、議会の対応の経過の中で明らかになったが、浅尾議員が議会の対応の現状が確認できる時間がありながらも、いきなりの議長の申し入れを出したことへの疑問が各議員から出された。しかし、ブログ発信したことを批判する議員だけでなく、浅尾議員の発信により、議会対応の問題が明らかになったことを評価する声もあった。議論の結果、全ての議員ではないが多くの議員が「情報発信のルールの検討が必要」と判断した。

以上の議論が公開の場で行われた。新聞という公器が扱う記事であることを考えるのであれば、正確に伝えることに最大限の努力を図るべきであった。貴社以外の記事については、概ね事実に基づいた報道がされたことを判断すれば、明らかに貴社の記事は恣意的な編集をしたと考えるに至った。新城市議会として、全世界の方々が誤解する記事となり、多くの抗議を受けた。その抗議の対応に要した職員の時間も多大なものとなった。

不適切発言批判 発信した議員に矛先

愛知県新城市の長田共永市議員（四七）が「無所属」が少子化対策として「穴の開いたコンドームを配って」と市議会が発言した問題で、新城市議会は二十三日、議員の情報発信を制限するルールを作ると決めた。

長田氏は六月十八日の一般質問で「婚姻届を出す夫婦に、穴の開いたコンドームを配ってはどうか」と発言。浅尾氏は今月十四日、自らのブログで「本会議での品位に欠ける恥すべき発言」として議長、市長に適切な対処を求め、長田氏の発言が問題として広がるきっかけとなった。

新城市議会「ルールつくる」

この日の協議会は傍聴を求める市民の要望で公開で行われた。長田氏は冒頭で自らの発言を謝罪し、総合政策特別委員長を辞任すると表明。市議辞職は「一議員として職責を果たしていきたい」と否定した。

その後、山崎祐一市議員（無所属）が浅尾氏に対し、「公職の立場にありながら、議会の問題提起する前に、自らの主観を表に出すのはいかがか」「一個人を挙げるなら相手に通告するなど配慮すべきだ」と発言。

他の市議数人も同調し、ブログやツイッターで発信する際のルールを何らかの形で設けることを、長田氏を除く十七人の市議の間で賛成多数で申し合わせた。浅尾氏は「時代と逆行するような後ろ向きなルール」と批判している。

議会としての長田氏の処分は今後、議員政治倫理審査会を開くなどして検討する。

本質ねじ曲げている

愛知大の宮入興一名誉教授（地方財政学）の話。不適切発言がテーマなのに、問題の本質をねじ曲げている。議員が自分たちの情報発信に手かせ足かせをしよつというのは、議会の常識と良識を疑わざるを得ない。



市議会全員協議会の冒頭、不適切発言を謝罪する長田市議員。23日、愛知県新城市で。